



Bーぐる沿線協議会ニュース

第27号

令和4年9月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係コミュニティバス担当 03-5803-1387

コロナの影響で書面開催が続いていた沿線協議会が、令和4年7月26日久々に対面で開催され、令和3年度の運行実績等が報告されたほか、今年度実施予定の利用実態調査等に関する説明がありました。

令和3年度の乗車人数は82万人。コロナから回復傾向も燃料費が足かせに

はじめに事務局から令和3年度の乗車人数に関し、千駄木・駒込ルート 399,926人、目白台・小日向ルート 361,922人、9月30日に運行開始した本郷・湯島ルートが58,342人、合計820,190人と報告がありました。新型コロナの影響で減少していた前年度から両ルートとも約20%増加しており、今年度も4~6月時点では前年比で増加していることから、今後も増加傾向が続くのではとの見通しが示されました。

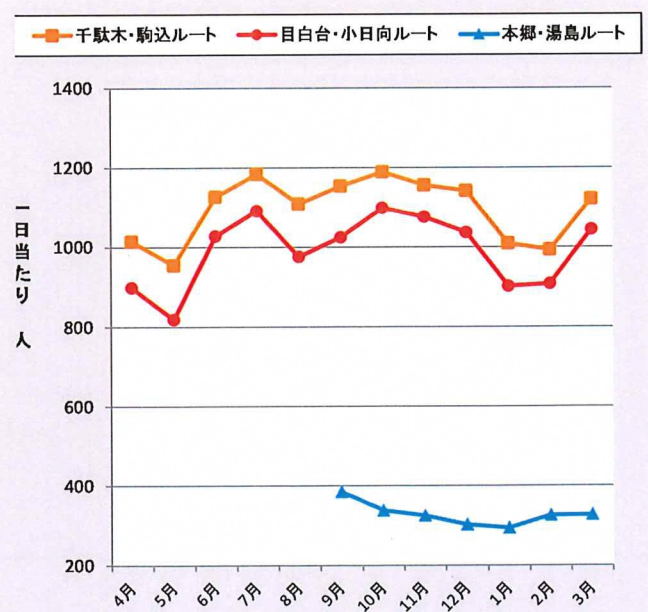
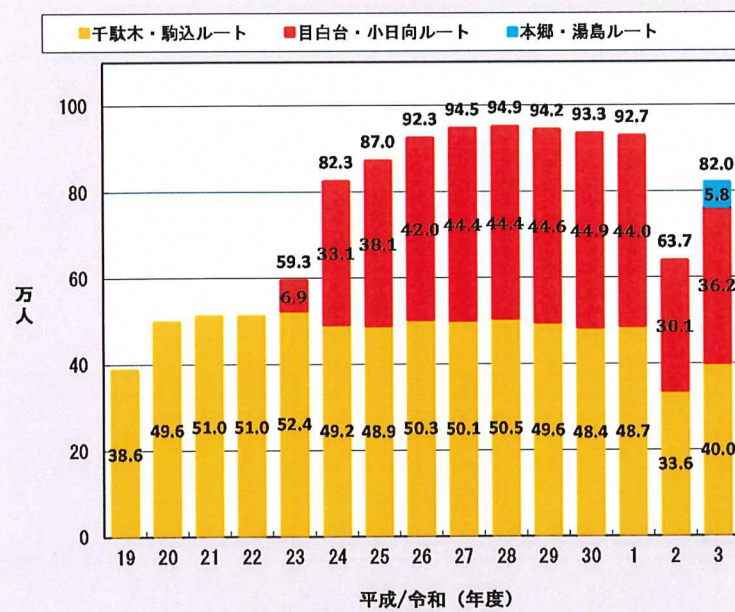
本郷・湯島ルートは当初想定していた利用者数をやや下回りましたが、事務局では他ルートの経緯と同様に開業数年間は状況を見守りながら周知を広め、利用

者の増加を目指したいとしています。

続いて運行事業者である日立自動車交通關田委員から令和3年度決算が報告されました。営業収入は、千駄木・駒込、目白台・小日向ルートとも前年比で約20%の増加となりましたが、令和元年度比では両ルートともマイナス15%近くと、まだまだコロナ以前に比べると厳しいこと、また、燃料費が前年比10%以上高騰したことが負担となり、赤字が続いている状況であると報告されました。

鈴木(亮)委員からは、利用者を増やすためにはYahoo!等の乗換案内での地理情報や運行情報が不可欠であり、早急に対応すべきとの意見がありました。

Bーぐるの乗車実績の推移(左)と月別乗車実績(令和3年度)



利便性の向上と新規需要開拓に向け、利用者実態調査を実施

次に、10月から開始される「文京区コミュニティバス利用実態調査」の詳細が説明されました。この調

査は、Bーぐるが令和3年9月から3路線になったことに伴い、各路線の利用状況や運行状況に関わる調

査を実施するとともに、運行計画の改善や利用促進に向けた基礎資料とするものです。

①コミュニティバス利用実態調査

バス停間や乗継利用、運行時間調査

平日、土曜、日曜 3 日間分実施の利用者 OD 調査

②コミュニティバス利用者意向調査

①調査実施時に配布する利用者アンケート調査

③コミュニティバス潜在需要調査

沿線地域住民の区内移動、交通需要の現況を把握するため、区内在住の 18 歳以上男女 2,000 人を無作為抽出して行なう区民アンケート

これら 3 つの調査から、利用促進に向けた研究を進めていきたいと報告されました。

委員からは、アンケート調査は紙だけでなく、インターネットでも回答を受け付けできるようにした方がよいの意見があり、事務局でも対応を検討したいとしました。



Bーぐると沿線地域を盛り上げるために、今後も活動を継続

最後に、Bーぐる友の会を代表して鈴木（亮）委員から令和 3 年度の活動報告と今年度の計画について説明がありました。

コロナ禍で活動が制限される中、特筆すべきものとして、令和 3 年 6 月に本郷・湯島ルート of バスデザイン会議を開催し最終案を取りまとめたこと、令和 4 年 2 月に行われた Bーぐるファン感謝祭では本郷・湯島ルート車両のお披露目と運転席での記念撮影に 200 人を超える来場があり大いに盛り上がったこと、車内情報誌 people がインターネット上で話題を呼んだことなどが報告されました。

今年度の活動は引き続き跡見学園女子大学土居ゼミ協力のもと車内番組の制作や people の企画発行

を継続するとともに、3 年ぶりに Bーぐる洗車ツアーの開催に向け準備を進めていると説明がありました。

また、自主事業として文京花の五大まつり開催にあわせたエンブレムの掲出は今後も継続して実施、現在活動見合わせ中の沿線地域での地域イベント参加に関して、今後開催されるようであれば協力していく姿勢であることが述べられました。

住友委員から、バリアフリー対応についての車内動画が放映されたことがきっかけで、乗客に自然とバリアフリーや障がい者に対する意識が根付きつつあり感謝している。また小能委員からは、Bーぐるマップのルート別チラシがあると区の観光イベントで配布できる、といった意見がありました。



新路線バスデザイン会議



Bーぐるファン感謝祭（1 階駐車場、アートサロン）



編集後記

本郷・湯島ルートは、コロナ禍真っ只中の令和 3 年 9 月に運行を開始しました。会議でも利用者数や認知度が今一つといった意見が聞かれましたが、これまで積極的な取組機会に恵まれなかったことも一因だったかもしれません。区内の観光施設を通り区外にも足を伸ばす期待の路線だけに、今後の推移を見守りたいと思います。（N）